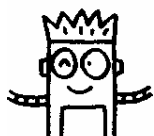


じゅうにひとえ

十二単は、どのくらいの重さがあったの



平安時代の十二単は、十数キログラムもあったよ
うだよ。

十二単とは、鎌倉時代かまくらじだいからのちによばれた名前で、平安時代には、唐衣裳装束からきぬもしょうぞく・
女房装束にようぼうしょうぞく・晴装束はれしょうぞくなどによばれました。この衣装は、おもに、単いしゅう・襲ひとえうちきかさね・
うちぎぬうちぎぬ・うわぎうわぎ・からぎぬからぎぬ・はかまはかま・ももからなります。このうち、単・襲うちき・打衣・表着
は、同じ形をしたものです。十二単を着るのは、特別な儀式ぎしきのときだけでした。

襲うちきを、たくさん重ねて着た

十二単の中心は、重ねて着る襲うちきです。初めは、その数にきまりがなかった
ので、5枚・8枚・10枚・15枚などと、たくさん重ねました。20枚も重ねた
ことがあったそうです。たくさん重ねるときも、同じ色のものを5枚ずつ3色重ね
る、といったテクニックが使われました。あまりにもたくさん重ねるので、藤原道
長ふじはらのみちながの時代に、5枚と定められました。これは五衣いつつきぬとよばれ、内側のものの色や模様
が見えるように、外側のものほど短くつくりました。

かんたん
簡単なものでも10キログラム近い

今も残っている、江戸時代の終わり
ごろの十二単の重さを、はかってみたら、
10キログラム近くあったそうで
す。この十二単は、平安時代のものと
くらべると、かなり簡単かんたんなしくみのもの
でした。ですから、軽い絹きぬでつくっ
てあるとはいえ、平安時代の十二単で、
襲うちきを20枚も着たら、十数キロ
グラムにもなったことでしょう。

